

2016年度

電気系大学院 (電気電子工学コース)

担当： 河野 崇

(1) 日時

毎週 金曜日 午前10:25～12:10

(2) 発表について

輪講では、出席教員および学生の前で発表と質疑応答を行う。発表言語は日本語あるいは英語とする。発表言語によらず、必要に応じて質疑応答は日本語あるいは英語で行ってよい。題目及び発表言語の選択にあたっては各自の指導教員と相談すること。

- a) M1・D1・D3の学生は、各自が選択した題目に関連する学術論文数篇（国内にかたよらないこと）を調査要約し発表する。
 - D3の学生は、研究テーマとは全く別の内容を選ぶこと。
 - D1の学生も、研究テーマとは全く別の内容を選ぶこと。あるいは、研究テーマと関連するテーマに関してより広い観点で動向を調査してもよい。
- b) M2・D2の学生は、各自の研究の中間発表を行う。
 - M2の学生の輪講発表では、修論審査員が加わり教員4名で、修士研究の中間審査が行われる。発表内容が不十分と判断された場合は、レポート提出あるいは次学期の再発表が課されることがある。

(3) 発表時間

1回3人、各35分ずつ

- a) M1・D1・D2・D3：発表25分+討論10分
- b) M2：発表20分+討論15分

(4) 会場

3会場（*）に分かれて行う。サイボウズで題目を確認し、各自毎回随意に選択していずれかに出席すること。（中途での会場変更は禁止）

*夏学期…211号（2号館1階） 244号（2号館4階） 246号（2号館4階）

*冬学期…243号（2号館4階） 244号（2号館4階） 246号（2号館4階）

(5) 発表日程

日程表は、2号館4階掲示板及び電気系事務室のwebページにて公開される。発表順序は、M2→D3→D1→D2→M1の予定である。輪講開始は4月8日（金）を予定している。発表日程決定後は発表日を変更してはならない。研究の進行が遅れているなどの個人的理由で発表日を遅らせた場合は、成績に反映される。発表を行わなかった場合は、原則として単位を取得できない。

(6) 出席調査

- a) 毎回、各会場にて出席調査を行う。年間通算の出席率が60%以下の場合には単位取得できない。80%以上の出席が望ましい。
- b) 5分以上遅刻した場合には欠席扱いとなる。ただし、交通機関の遅延による遅刻の場合は、遅延証明書を提出すれば出席扱いとなることがある。遅刻者は、輪講

会場の教員から遅刻時間を記入した報告書（感想用紙）を受け取り、聴講した発表に対する感想を記入する。輪講終了後、聴講できなかった発表に関してレジюмеをよく読み、その感想を記入して電気事務室に当日中に提出すること。

- c) 学会発表などのため、どうしても出席できない場合は考慮されることがある。その場合、必ず事前に指導教員を通じて申し出ること。
- d) 出席調査に対する不正行為（例えば、本人が欠席し、友人が感想文を代理執筆し提出した場合）は退学などの厳罰処分の対象となる。

(7) 成績判定

成績判定には上記の出席点を重視するが、発表に対する評価も加味される。発表の内容によっては再発表を求められる場合や単位の認定を受けられない場合がある。

(8) 輪講題目提出期限

- a) 題目は和文・英文両方を併記すること。
- b) あらかじめ2号館4階掲示板、電気系事務室webページで発表会場および発表日を確認すること。以下の期日までに電気系サイボウズ

<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/cb6/ag.cgi>

に自分のアカウントでログインして「輪講」を選択、発表会場列の発表日をクリックして必要事項を入力する（詳しい手順は付録Aを参照）。

※平成28年度の最初の日程表（発表者のみ）は3月30日（水）に掲示予定。

- c) 提出期限後に題目を変更する場合は、指導教員の許可を得ること。

（輪講題目締切日）

4月入学生	秋入学生	締切
M2	M1, D2	平成28年 4月 5日（火）
D3, D1		平成28年 5月 9日（月）
M1, D2	M2, D3	平成28年10月 5日（水）
	D1*	平成28年10月11日（火）

D1*…平成28年秋入学者

注意 …平成27年秋入学生のD1は平成28年度の発表は行わない。

(9) 資料の作成

配付資料とプレゼンテーション用資料を用意する。

- a) プレゼンテーション資料はすべて英文とする。各会場でPC用プロジェクタが使用できる（PCは持参すること）。
- b) 配付資料は図表を含め総計8頁以内とする。資料の図説明・キャプションは英語で表記する。最初の部分に150ワード程度の英文アブストラクトを挿入する。本文は日本語、英語のいずれかとする。英語の場合は、他分野の学生の理解を助けるため、付録としてキーワードの用語集をつける。表紙を別につけることはせず、題目、学生証番号、氏名、指導教員名を第1頁上部に記すこと。
 - M2, D2の学生は各自の学会発表等のリストを末尾に付加すること。
 - M2の学生は、付録Bのフォーマットに従って配付資料を作成すること。

(10) 配付資料のプリントアウト、ダウンロードおよびアップロード

発表者は配付資料6部（教員閲覧用、事務室提出用）を印刷し、輪講会場に持参すること（電気系事務室および2号館5階図書室では印刷できないので注意）。参加学生には配布されないため、以下の方法でアクセスすること。

a) ダウンロード

- 電気系サイボウズ

<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/cb6/ag.cgi>

に自分のアカウントでログインして、「ファイル管理」を選択する。

- 下の方にある「電気系輪講資料」というフォルダをクリックし、開講学期のフォルダをクリックする。
- これまでにアップロードされた資料の一覧を見て、必要な資料のタイトルをクリックする。

b) アップロード

発表者は、発表前日12:00までに以下の方法により資料をアップロードすること。期限までにアップロードされていない場合は、再発表となること、成績に反映されることがある。また、輪講開始時までにアップロードされていない場合は原則として再発表が課される。修士の学生は、資料をアップロードする際に、指導教員と発表当日の会場担当教員にメールで資料を送付すること。

- 資料のファイル名を「日付 (YYMMDD) _会場_発表順(1~3)_氏名 (ローマ字表記) .pdf」とする。（例：110422_211_1denkijimu.pdf）
- 電気系サイボウズに自分のアカウントでログインする。「ファイル管理」を選択し、「電気系輪講資料」というフォルダをクリックする。開講学期のフォルダをクリックし、左上の方にある「ファイルを追加」をクリックする。
- アップロードするファイルを選択する画面に変わるので、赤い*のついて「ファイル」という項目の右側にある「参照...」をクリックし、自分の資料ファイルを選択する。
- 左下の「追加」ボタンを押す。
- タイトル登録を行ったサイボウズフォロー欄のタイトル下に『サイボウズ輪講ページ』で資料が閲覧出来るようにリンクを張ること。

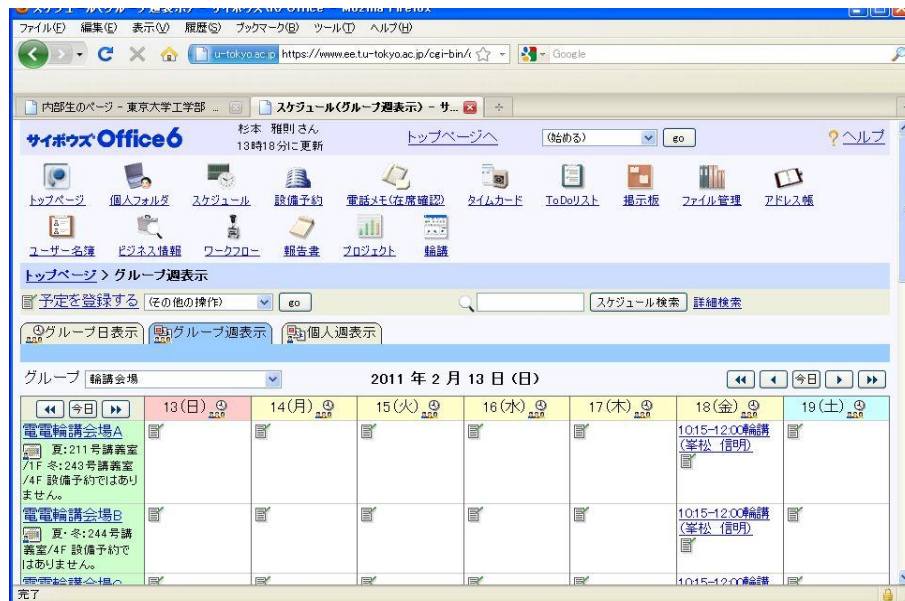
(11) 電気電子工学コース／融合情報学コース／電子情報学／大学院論文輪講出席の相互互換制度について

工学系電気系工学専攻の学生は、毎回の聴講会場の選択に際して、電気電子工学コース大学院輪講、融合情報学コース大学院輪講および電子情報学大学院輪講の中から一会場を選んで出席することができる。

- a) 出席調査の方法は、その会場の方式に従う。
- b) 自身の発表スケジュール、受講登録、およびその認定に必要な出席数、などに関するルールは、電気電子工学コースのものに従う。
- c) 電気電子工学コース大学院輪講が行われていない日に融合情報学コース大学院輪講および電子情報学大学院輪講に出席しても出席扱いとならないので注意すること。

付録A. Title Submission via Cybozu

- (1) Log in Cybozu (<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/cb6/ag.cgi>) and find the “輪講” icon. Click a link in a cell corresponding to your presentation date and room. (The figure below shows that you will present at 電気系会議室 B on 2/18.



- (2) Fill the form as shown in the figure below. The following information is requested: (a) presentation order, (b) your grade, (c) laboratory name, (d) presentation language, (e) Japanese title, (f) English title, (g) link to your uploaded document.

The screenshot shows the '予定の詳細' (Schedule Details) form in Cybozu. The form contains the following information:

- 日時: 2月18日(金) 10時15分 ~ 2月18日(金) 12時00分
- 予定: 輪講
- メモ: (empty)
- フォロー:
 - 杉本 雅則: P/D2/輪講研究室/英語 # 発表順 (order)/学年 (grade)/ 研究室名 (lab name)/使用言語 (language)
 - 峯松 信明: 2(発表順) / D1(学年) / 所属研究室 / 使用言語
 - 日本語タイトル: (empty)
 - 英語タイトル: (2011/2/17(木) 22:25) <https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/cb6/ag.cgi/101112B1PantuwongNatapon.pdf?page=FileDownload&id=22591¬imecard=1&type=application&subtype=pdf&ct=1&.pdf> (2011/2/18(金) 0:38)
 - 学部学生: 秋吉研 / 日本語
 - ジャズピアノ: Jazz piano (2011/2/17(木) 21:49)
 - 齋藤 大輔: 涼宮研 / 日本語
 - エンドレスエイト 1: Endless eight 1 (2011/2/17(木) 21:46)
- 参加者: (empty)
- 設備: 電気系会議室B

- (3) You can change your title after the submission deadline. However, to check if you meet the submission deadline, please do not change the submitted title for at least one day after the deadline.

付録B. M2 修士論文中間審査資料フォーマット

修士論文中間審査資料
(題目)
(発表年月日)
(指導教員名, 学籍番号, 氏名)

アブストラクト

英文 150 ワード以内で、研究目的、研究内容と現状について簡略に述べる。

研究の背景

社会・学会などの周辺状況を説明し、自分の研究分野とその意義を明確に説明する。自他の研究グループによる先行研究を簡単にレビューし、どのような課題があるのか、自分の研究課題がどのようなポジションをしめるのか説明する。

研究の目的と意義

上記の背景に基づき、修士研究の目的、具体的目標を明確に説明する。その目的が達成されたときの意義を述べる。

研究の内容

研究の全体像を明らかにする（今後の計画を含む）。研究の手法・原理、研究の手順・計画、期待される結果、などについて具体的に説明する。

研究の現状

これまでに得られた結果について報告する。問題点があれば、その解決策、あるいは解決策案を示す。

参考文献